

⑫ 特 許 公 報 (B 2)

昭 63 - 54363

⑬ Int. Cl. ⁴

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公告 昭和63年(1988)10月27日

A 45 B 19/10
25/14

6766-3B
Z-6766-3B

発明の数 1 (全5頁)

⑮ 発明の名称 折畳式傘骨

⑯ 特 願 昭60-112192

⑰ 公 開 昭61-272003

⑱ 出 願 昭60(1985)5月27日

⑲ 昭61(1986)12月2日

⑳ 特 許 第1307089号の追加

㉑ 発 明 者 楊 其 国 台湾台北板橋市長安街138巷3弄67号

㉒ 出 願 人 九和洋傘股份有限公司 台湾台北板橋市長安街138巷3弄67号

㉓ 代 理 人 弁理士 最上 正太郎

審 査 官 大 矢 弘 昭

1

2

㉔ 特許請求の範囲

1 下記(a)項乃至(f)項記載の要素より成る折畳式傘骨。

(a) 中心軸に沿って溝を有し、下柄管内に嵌挿した上柄管上端の固定ロックに枢着され、溝側の中間部に固定中ヒンジ及びこれに隣接する係止解除用突起が設けられた親骨。

(b) 一端に設けた接続具により親骨の自由端部に枢着された子骨。

(d) 上記上柄管及び下柄管に上下動自在に嵌挿された下ロックに一端が枢着され、他の一端が上記親骨の固定中ヒンジに接続される引杆。

(e) 上記引杆と親骨の固定中ヒンジとの結合部に設けられ、上記引杆に沿って延びる細長いスライドラットとその親骨側端部に連なる係止用ノッチとから成る「伏の案内路を具備又は構成する結合金具」。

(f) 一端が上記子骨に設けた接続具に接続され、他の一端が上記結合金具の「伏の案内路」に摺動自在に引掛けられ、傘が開かれたとき「伏の案内路」の係止部に嵌合せしめられると共に、傘が閉じられたとき上記係止用ノッチに係止された上記子骨を伸びた状態に保持し、傘が閉じられた状態で親骨を握って束ねたとき親骨に設けた係止解除用突起により押圧されて係止が解除されるバネワイヤ。

発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明は折畳式傘骨の改良に関するものである。

〔従来の技術〕

従来の折畳傘に関する技術として、例えば実開昭58-173312号及び実開昭58-181219号の「折畳洋傘における子骨自動展開装置」は、第9図に示す如くその引杆8の先端に金具7が設けられており、この金具7には長孔71が設けられている。

これらの考案においては傘を開いたときには子骨が自動的に展開されるが、傘を閉じたときには子骨は自動的に折り畳まれない。また傘を一時閉じて手に持つ時に子骨が親骨に対して一直線状に保持されないので不便である。

また、実開昭59-125214号の「伸縮洋傘における係止片操作装置」では、第10図に示すようにその親骨8と子骨9の間の子骨取付具10に内に凸の突起101を設け、傘を閉じたとき子骨が親骨に対して一直線状に保持されるようにして傘を一時閉じて手に持つときに子骨が折り畳まれないようにしている。

〔発明が解決しようとする問題点〕

然しながら、上記実開昭59-125214号に示されているような従来の折畳式洋傘は、第12図に示す如く傘を折り畳んで収納する時に手でいちいち各子骨9を外向きに折らなければならないという煩わしさがあり、また子骨9を折り畳むと再び傘を開く時の邪魔になる。即ち、子骨が折り畳まれた状態から傘を開く時は必ず各子骨を手で払って

これらが親骨に対して直線状になるようにするか、或いは往復何回か傘の下クロを押したり引いたりして、子骨を伸ばした状態にしてから傘を押して開けるようにしなければならない。そうしないと子骨が折り畳まれた状態のまま押し開かれて傘が正常に開かないという現象が起こる。

このように折畳式洋傘に於ける子骨と親骨との結合の構成は傘を開く過程において傘はスムーズな押し開きに大きく影響し、従来のものは不便で手間のかかるものであった。これは従来の折畳傘を使用した事のある者が誰しも経験し、感じる欠点である。

〔問題点を解決するための手段〕

本発明は前記従来の折畳傘の欠点を解決した折畳式傘骨を提供するもので、引杆と親骨の結合部に設けられた金具を改良し、この金具に上記引杆に沿って延びるスライドスリットとその親骨側端部に連なる係止用ノッチとから成る「状の案内路」を設け、これにより傘が開かれその後に傘を一時閉じたときに上記案内路の係止用ノッチで子骨に結合されたバネワイヤを係止して子骨を引き伸ばされた状態に保持すると共に、親骨を握って束ねたときバネワイヤの係止を解除して子骨が自動的に折り畳まれて収納されるよう構成し、傘の使用を便利ならしめたものである。

〔作用〕

本発明に於ては、傘が開かれたときにバネワイヤの撻動端が結合金具の「状の案内路」の係止用ノッチに嵌合され、傘が閉じられたときに上記係止用ノッチに上記バネワイヤの撻動端が係止されて子骨が伸びた状態に保持されると共に、傘が閉じられた状態で親骨を握って束ねると親骨に設けた係止解除用突起によりバネワイヤの撻動端が押圧されるので係止が解除され子骨が自動的に折り畳まれて収納されるものである。

〔実施例〕

以下、図面に基づいて本発明の詳細を説明する。

第1図は本発明に係る折畳式傘骨の一実施例の主要部を示す説明図、第2図は本発明の一実施例に於いて傘を開き始めたときの状態を示す説明図、第3図は傘が開かれたときの状態を示す説明図、第4図は傘が閉じられたときの状態を示す説明図、第5図は傘を折り畳んで収納するときの説

明図、第6図はバネワイヤが係止用ノッチから離脱して子骨が折り畳まれたときの状態を示す説明図、第7図及び第8図は引杆と親骨との結合部に設けられた金具の他の実施例を示す説明図、第9図は実開昭58-173312号及び実開昭58-181219号に係る考案に於ける引杆と親骨との結合部に設けられた金具の説明図、第10図は実開昭59-125214号に係る考案に於いて接続具を含む主要部の説明図、第11図は実開昭59-125214号に係る考案等の公知の傘に於いて子骨を折り畳むときの説明図である。

第1図乃至第9図中、1は結合金具、11は「状の案内路」、12は係止用ノッチ、13、14は結合孔、2はバネワイヤ、21はバネワイヤの撻動端、3は引杆、4は親骨、41は接続具、42は係止解除用突起、5は子骨である。

第1図に示す如く、本発明の特徴は引杆3と親骨4との結合部に、引杆3に沿って延びるスライドスリットとこれに連なる係止用ノッチとから成る「状の案内路」を構成する結合金具1を設けたことにある。

結合金具1は板材によりプレス成形され、本実施例ではその中央部及び端部にそれぞれ結合孔13及び14を有し、結合孔13により引杆3の先端に結合され、結合孔14により親骨4の固定中

ヒンジに結合される。子骨5の基部に設けられ親骨4の自由端部に枢着される接続具41にはバネワイヤ2の一端が接続され、バネワイヤ2の他の一端21は結合金具1の案内路11を通過して折り返され、傘を開閉時に案内路11内で撻動するように構成されている。

傘を開く動作が開始された時、バネワイヤの撻動端21は結合金具1の案内路11内で撻動し始め、第2図で示すように子骨5を展開せしめ、傘が完全に開かれたときは第3図に示す如き状態となる。

第3図に示す傘を開いた状態から第4図に示すように傘を閉じた時、バネワイヤの撻動端21は係止用ノッチ12によつて係止され、子骨5は依然として伸ばされた状態を維持する。これは傘を閉じて使用を一時停止して手に持つ時やその状態から再び開くときに便利にしたものである。

傘を閉じた後にこれを折り畳んで収納するとき、第5図に示す如く親骨4の固定クロに近い

部分を握って束ねる。この時、結合金具1は親骨4の溝内に押し込まれ、案内路11の係止用ノッチ12に係止されているバネワイヤの摺動端21は親骨に設けた係止解除用突起42に押圧されて係止用ノッチから離脱し、第6図で示す如く子骨5が折り返されて折り畳まれる。即ち、各子骨5の折り畳みは只親骨4の固定ロックに近い部分を握って束ねるだけでよく、簡単で手間がかからない。

尚、本発明に於ける引杆と親骨との結合部に設けた金具は、その作用を変化させることなく上記実施例で示したものの他に第7図及び第8図に示す形状にワイヤ線材等を折り曲げて作ることができる。

〔発明の効果〕

本発明は叙上のごとく構成されるから本発明によるときは、傘を折り畳んで収納する時に手でいちいち各子骨を外向きに折る必要がなく、親骨を束ねただけで子骨が折り畳まれ、また子骨が折り畳まれた状態から傘を開く時にも各子骨を手で払ってこれらが親骨に対して直線状になるようにしたり、往復回か傘の下ロクロを押したり引いたりする必要がなく、傘を押し開ければ各子骨が自動的に展開される便利で手間のかからない折畳式傘骨を提供することができる。

追加の関係

本発明特許第1307089(特公昭60-30203)は本願出願人が昭和56年特許願第142403号(特開昭58-46907号)で開示した原発明の構成に欠くことができない事項の全部又は主要部をその構成に欠くことができない事項の主要部とする発明であつて、原発明と同一目的を達成するものである。

即ち、本発明は原発明の基本構成を変更するこ

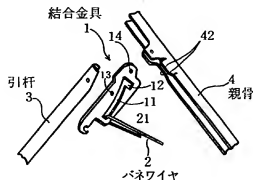
となく、原発明に於けるスライドホックを「状の案内路を具備又は構成する結合金具で代替することによってその強度及び耐用性を向上させると共に、傘を折り畳んで収納する際の使い勝手を更に向上させたものである。

図面の簡単な説明

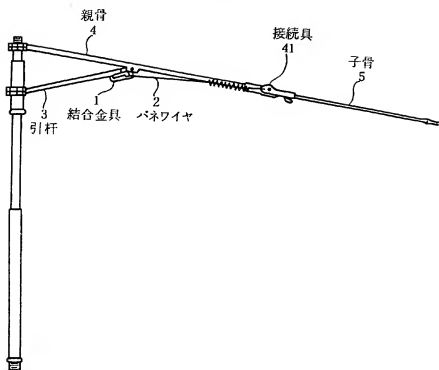
第1図は本発明に係る折畳式傘骨の一実施例の主要部を示す説明図、第2図は本発明の一実施例に於いて傘を開き始めたときの状態を示す説明図、第3図は傘が開かれたときの状態を示す説明図、第4図は傘が閉じられたときの状態を示す説明図、第5図は傘を折り畳んで収納するときの説明図、第6図はバネワイヤが係止用ノッチから離脱して子骨が折り畳まれたときの状態を示す説明図、第7図及び第8図は引杆と親骨との結合部に設けられた金具の他の実施例を示す説明図、第9図は実開昭58-173312号及び実開昭58-181219号に係る考案に於ける引杆と親骨との結合部に設けられた金具の説明図、第10図は実開昭59-125214号に係る考案に於いて接続具を含む主要部の説明図、第11図は実開昭59-125214号に係る考案等の公知の傘に於いて子骨を折り畳むときの説明図である。

1……結合金具、11……「状の案内路、12……係止用ノッチ、13、14……結合孔、2……バネワイヤ、21……バネワイヤの摺動端、3……引杆、4……親骨、41……接続具、42……係止解除用突起、5……子骨、6……公知の傘に於ける引杆、7……公知の傘に於ける引杆と親骨との結合部に設けられた金具、8……公知の傘に於ける親骨、9……公知の傘に於ける子骨、10……公知の傘に於ける子骨取付具、101……公知の傘に於ける子骨取付具に設けられた突起。

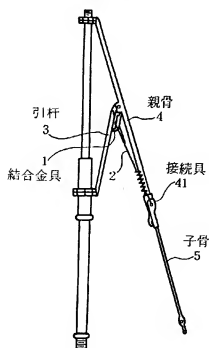
第1図



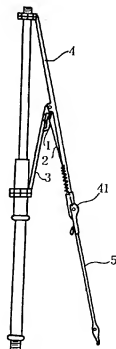
第3図



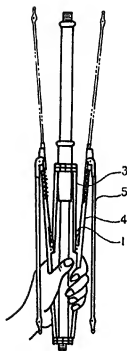
第2図



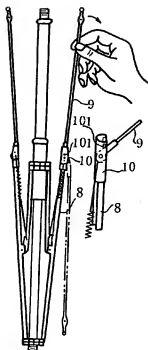
第4図



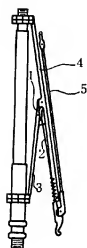
第5図



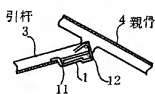
第11図



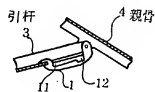
第6図



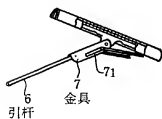
第7図



第8図



第9図



第10図

